

## Ⅱ．研修別報告

### 5．養護教諭のスキルアップと 養護教諭像の醸成を目指した学びの会

# 養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会

キーワード： 養護教諭 スキルアップ 現職研修

## I. はじめに

養護教諭には、学校という場でその職務を遂行するための様々な能力が必要とされる。養護教諭は、各学校に一名の配置である場合が多く、その職務内容は、校種、勤務学校の規模などにより大きく異なる。さらに、法制度の改正、時代のニーズにより職務内容を変えることや、国・県の方針を意識することも求められる。職務を遂行する過程で生じる課題について、小中学校では、近隣校との交流の機会（地域の養護教諭部会など）があるが、高等学校では、こうした機会も少ない。さらに高等学校では、生徒の生活地域は広域となり、扱う健康問題等も複雑になるため、より一層、相談者を得にくく、悩みや葛藤の共有も難しい状況となっている。このように、養護教諭が職務遂行において抱える悩みや葛藤は多様であり、さらにそれらを他者と分かち合うことや、十分な経験を持つ養護教諭への相談ができにくい現状がある。

岐阜県において養護教諭に対する現職教育としては、新規採用研修・6年目研修・12年目研修等が行われているが、一般教諭の研修に比べ研修回数等が少ないことや、指導養護教諭が身近にいない状況での研修になっている。職務遂行において抱える悩みや葛藤、課題の解決が研修の場だけでは解消できていないのではないかと考えられる。本学においても、卒業生交流会が開催されているが、養護教諭の卒後支援には、養護教諭の職務事情、養護教諭の悩みや葛藤に特化したディスカッションや、ベテラン養護教諭からの助言、そしてネットワークづくりまで視野に入れた支援が必要であり、現行の卒業生交流会では各々の課題を解決するまでには至っていない現状がある。

また、新規採用後、養護教諭としての経験を一通り終えた卒後4～6年目にあたる時期には、転任による職務変化を経験する時期であり、自身の養護教諭像を模索し始める時期でもある。この時期、各養護教諭にはスキルアップや、目指す養護教諭像の再検討が求められる。しかし、養護教諭自身に向上意欲があっても、前述した養護教諭の職務の特性から、スキルアップにつながる方法が見出せず、自分が描く養護教諭像を定めにくい現状がある。その結果、向上意欲の低下や、養護教諭の魅力さえも見失う場合も生じている。

これらのことから、卒後1～6年目となる養護教諭が、職務における悩みや葛藤を話し合い、またベテラン養護教諭の助言・講義を受けることで、自分自身の課題と今後の目標を見つけ、より広い視野で養護教諭の在り方を検討する機会とし、現職教育の充実にもつなげたい。

## II. 事業担当者

本事業は、以下の教員で実施する。

育成期看護学領域：長瀬 仁美 山本 真実 機能看護学領域：松本 訓枝

## III. 事業（研修会）の企画

### 1. 養護教諭学びの会の開催

#### 1) 目的

卒後1～6年目となる養護教諭が、職務における悩みや葛藤を話し合い、またベテラン養護教諭の助言・講義を受けることで、自分自身の課題と今後の目標を見つけ、より広い視野で養護教諭の在り方を検討する機会とする。それにより、養護教諭としてのスキルアップに向けた意欲を養う。また将来的には、自主的な勉強会等へと発展することを目指す。

#### 2) 対象

経験年数1～6年目の養護教諭。希望があれば、卒業校・経験年数に問わず参加可能とする。本学の卒業生を含む、経験年数1～10年目程度となる養護教諭を対象に実施案内を送付し参加者を募る。今年度は県内全域に案内を送付する。

#### 3) 実施方法

本学を会場として、学びの会を2回開催する。参加の有無について返信を依頼し、その際、職務に関する感想（悩み・葛藤を含む）、今後学びたいことを募集した。研修時間は1回あたり3時間程度とした。実施内容は以下に示した。

① 自己紹介

② ベテラン養護教諭の講話

・卒後1～6年目養護教諭の悩みや葛藤に関わる具体的な実践内容。

- ・ベテラン養護教諭が実践の中で培った養護教諭としての理念。
- ③ 悩みや葛藤、解決の方法等についてディスカッション。  
グループ編成は2通りとする。
  - ・経験年数ごとに分かれた養護教諭とベテラン養護教諭、大学教員によって構成する。
  - ・経験年数混在（ベテラン養護教諭含む）養護教諭、大学教員によって構成する。
- ④ 終了後アンケートを実施し、本会参加の感想、本会参加による仕事への意欲の変化、本会への希望などについて意見を集める。
- ⑤ 教員とベテラン養護教諭で学びの会の成果や今後の方針について意見交流する。
- ⑥ 評価：参加者による終了後のアンケート・ベテラン養護教諭との振り返りにより評価を行う。

#### IV. 研修会の実施方法・内容・結果

##### 1. 実施方法・内容

###### 1) 平成30年度

第2回「養護教諭学びの会」開催日時：平成31年3月2日（土）13:00～16:00

プログラム：講話①「組織を活かした健康教育の在り方」

羽島市立中島小学校 養護教諭 首藤めぐみ 氏

講話②「特別支援学校における養護教諭の役割から」

岐阜県立大垣特別支援学校 養護教諭 板津まりな 氏

グループディスカッション（経験年数混在型）

- ・養護教諭ならではの視点があるからこそ、教育相談コーディネーターとして人と人をつなぎ、子どもたちを支援できると感じた。
- ・ケース会議の持ち方や校内連携、情報交流など具体的な話を聞くことができよかった。
- ・経験はあっても、他の養護教諭の実践を聞く機会は限られており刺激になった。
- ・今後も若手とベテラン養護教諭が交流できる場があり、日頃の職務の悩みや不安を共有したり、実践を共有したり、助言いただける機会があるとよい。
- ・ベテラン養護教諭との交流も必要だが、若手だけの交流の場もあるとよい。

###### 2) 令和元年度

(1) 第1回テーマ：「養護教諭の危機管理の在り方」

・開催日時：令和元年8月24日（土）13:00～16:00 場所：岐阜県立看護大学

・プログラム：講話①「被災地に派遣された養護教諭としての経験を生かして」

神戸町立神戸小学校 養護教諭 佐々木実里 氏

講話②「学校事故が発生した時の対応 ～養護教諭の視点から～」

大垣市立西小学校 養護教諭 阪野きよみ 氏

・参加者数：19名（講師・ファシリテーターを含む）本学卒業生（11名）

経験年数 3年未満 3名、3～5年 7名 6～9年 5名 10年以上 4名

※ベテラン養護教諭等 3名（講師、ファシリテーターを含む）

・実施内容：講師による講話。経験年数別グループディスカッション。終了後アンケート実施。

(2) 第2回テーマ：「学校保健活動のコーディネーターとしての養護教諭の在り方」

・開催日時：令和元年12月14日（土）13:00～16:00 場所：岐阜県立看護大学

・プログラム：講話①「養護教諭としてのスキルアップを目指して」

岐阜市立本荘中学校 養護教諭 河合 淑恵 氏

講話②「特別支援学校における養護教諭の役割について」

岐阜県立羽島特別支援学校 養護教諭 小島なつ美 氏

・参加者数：25名（講師・ファシリテーターを含む）本学卒業生（10名）

経験年数 3年未満 6名、3～5年 7名 6～9年 5名 10年以上 5名

校長 1名 指導主事 1名

※ベテラン養護教諭等 4名（講師、ファシリテーターを含む）

・実施内容：講師による講話。経験年数別グループディスカッション。終了後アンケート実施。

##### 2. 研修会の実施結果

###### 1) 参加者の状況

平成28年度から令和元年度までの参加者数を表1に、令和元年度参加者数の校種・経験年数別参加者数及び本学卒業生の参加者数を表2、表3に示す。（講師・ファシリテーター等も含む）

表1 養護教諭学びの会参加者数(平成28～令和元年度) 人

		合計	1～3年	4～6年	7～9年	10年以上
平成28年度	第1回	16	7	5	1	3
	第2回	25	16	5	2	2
平成29年度	第1回	16	5	2	2	7
	第2回	17	6	6	3	2
平成30年度	第1回	22	8	11	3	0
	第2回	24	11	3	4	6
令和元年度	第1回	19	3	7	5	4
	第2回	25	6	7	5	7

表2 令和元年度 第1回養護教諭学びの会参加者数 人

	合計	1～3年	4～6年	7～9年	10年以上
小学校	12	5(3)	3(3)	1	3
中学校	6	1(1)	4(3)	1(1)	0
高等学校特別支援学校	1	1	0	0	0
合計	19(11)	7(4)	7(6)	2(1)	3

表3 令和元年度 第2回養護教諭学びの会参加者数 人

	合計	1～3年	4～6年	7～9年	10年以上
小学校	16	5(3)	5(4)	3	3
中学校	4		3(2)	0	1
高等学校特別支援学校	3	1(1)	0	1	1
校長・指導主事	2				2
合計	25(10)	6(4)	8(6)	4	7

\*合計( )内の数字は、本学卒業者の参加人数

## 2) 参加者の感想

(1) 第1回テーマ:「養護教諭の危機管理の在り方」

【講話からの学び(参加者の感想より)】

①危機意識をもつことの重要性

・勤務校の実態や状況におきかえて当事者意識をもつことや、薄れつつあった危機意識について見直す機会となった。学校安全に対する意識が低下していることを実感した。

②日常的な職務から養護教諭が危機管理の視点をもつことの大切さ

・いざという場合に対応できるようスキルを高めておくことや、必要な物品を用意し、学校での対応を養護教諭の視点から確認しておくことが重要だと感じた。  
・基本的なことを日々丁寧に行うことや保健室経営を見直す必要があると感じた。

③子どもたちへの心のケアの実際を学び実践することの必要性

・ストレスが引き起こす体や心の変化への対応について災害が起こる前から児童生徒に指導しておくことも大切だとわかった。

④学校事故が発生した時の対応の実際から自校の体制、対応を見直す

・学校事故と聞いて、とても大きなことを想像していたが、身のまわりで起きていること、その発生から危機意識を高めていかなければいけないと学んだ。  
・もし学校事故がおきたときの対応や連携について明確にしておくことが重要である。  
・参加者と交流することで、自分では気付かない様々な視点から事故発生時の対応について考えることができた。

④ヒヤリハット事例や失敗した経験を同職者で共有し活かすこと

・ベテランになっても学び続ける養護教諭の姿勢から、自身も失敗ノートを作り見習いたい。  
・学校版トリアージの作成と学校での訓練に直ぐに取り組みされた積極的な姿勢を学びたい。

(2) 第2回テーマ:「学校保健活動のコーディネーターとしての養護教諭の在り方」

【講話からの学び(参加者の感想より)】

①保健室経営計画を作成することの重要性を改めて認識したこと

・保健室経営案をつくるのが、自分のレベルアップにもつながるし、子どもにつけたい力が明確になるとわかった。子どもたちにどうなってほしいのか、という思いを大切にして、計画を立てたいと思う。

- ②より統合された学校保健活動を推進するためのコーディネート力が必要であること
  - ・子どもたちの学びがより深く、生活に生きるものとなるように、健康教育を「つなげる」ことを工夫して実施していきたいと思った。
  - ・子どもを支援するにあたって、「誰が」「何を」「どういう役割で」「支援するのかを明確にすること」を聞き、自分自身がまず明確にしていくように努力していかなければならないとあらためて実感した。
- ③子どもたちの自己肯定感を養護教諭としてどのように高めていくかということ
  - ・ひとりでも自分を大切にしたいと思える子がいればよいという思いをもって実践された先生は本当に素晴らしく見習いたいと思った。
  - ・いのちの教育というのをとても大切にされていて、自己肯定感を高めるための働きかけをされていると知ることができた。
  - ・自己肯定感が低い児童が多いので、どうしたら心にひびく指導ができるのか考えたい。
- ④特別支援学校における養護教諭の職務の工夫
  - ・特別支援学校でされている配慮や工夫は、小・中・高のどこへ行っても通じるものだと思うので、大切にしていきたい。
  - ・ユニバーサルデザインは特別支援学校だけでなく通常でも同じだなと感じた。

### 3) 参加者の意見

#### (1) 第1回

- ・保健教育や職員研修については学ぶ機会があるが、日頃の執務や救急処置については学ぶ機会が少ない。ベテランの先生方の経験から、日頃の執務にすぐに生かすことができ、今回のような機会があると大変勉強になる。
- ・今回のような学びの会等に参加し、知識を身に付け、自分を振り返る機会を活かしたい。
- ・失敗を相談できる関係づくりを構築しておくことが大切であり、その機会になっている。

#### (2) 第2回

- ・センター研等、興味のあるお話はたくさんあるが、距離が遠く参加しづらい。県内どこにいても平等に学べる機会が課題だと常に感じる。
- ・直接指導をいただける場がほしい。良くも悪くも待っていては何も言われなくなってきた。今回参加して、実践を評価してもらえる状況を自分で作り出さないといけないとわかった。

### 4) 参加者からの意見（今後あるとよい企画など）

#### (1) 第1回

- ・ベテラン養護教諭の保健室経営の実際
- ・児童生徒への指導力の向上
- ・職務の引継ぎ（学年末、学年始めのこと）
- ・保健室登校への対応
- ・ヒヤリハット事例の交流
- ・救急処置や教育相談について交流

#### (2) 第2回

- ・健康相談事例の交流
- ・保健室登校、相談室登校への対応

### 5) 参加者からの評価

#### アンケート調査結果

研修会の終了時に評価のためにアンケート調査を行った。質問項目は「研修会での学び」「研修会に対する意見」「スキルアップを図るために、今後どのようなことをしたいか」「若手養護教諭が育っていくために取り組むと良いこと・課題だと思うこと」であった。1回目の学びの会では19名に配布し15名から回答（回収率78.9%）が得られ、第2回は、20名に配布し、18名から回答（回収率90.0%）を得た。

#### (1) 第1回 アンケート配布者19名中15名から回答を得た。

- ・研修会のテーマ よかった (15/15)
- ・研修会日程 よかった (15/15)
- ・研修会の開催場所 よかった (15/15)
- ・研修会のプログラム よかった (15/15)
- ・次回研修会があればぜひ参加したい(13/15) できれば参加したい(2/15)

#### (2) 第2回 アンケート配布者20名中18名(一部は17名)から回答を得た。

- ・研修会のテーマ よかった (18/18)
- ・研修会日程 よかった (18/18)
- ・研修会の開催場所 よかった (18/18)
- ・研修会のプログラム よかった (17/17)
- ・次回研修会があればぜひ参加したい(14/17) できれば参加したい(3/17)

## V. 成果

### 1 看護職の研修としての有用性について

#### 1) 養護教諭学びの会参加者の学びの明確化

令和元年度第1回、第2回の養護教諭学びの会における、職務に対する思いや悩み、今後学びたいことについて自由記述を表4、表5に示す。

表4 職務に対する思いや悩み・今後学びたいこと（第1回）

カテゴリ	要約
救急処置 危機管理	子どもへの対応(救急処置、アレルギー等)、校内の危機管理意識を高めるための手法、被災地派遣の養護教諭の学び、危機意識を高める研修方法・ヒヤリハット事例の交流、学校の危機管理体制や防災に係る内容
保健室対応	職員間の連携、児童生徒の情報共有、教育相談の実践事例、相談室登校の生徒への組織的な対応と連携、病気やけが以外に来室する児童生徒の支援、授業(教室)への参加を渋る生徒への対応
働き方改革	働き方改革、スリム化への対応、分掌や事務仕事の多さ
職務内容の変化	規模や校種、郡市等の違いによる戸惑い、悩み
管理職登用	養護教諭の管理職への登用と職務内容等

表5 職務に対する思いや悩み・今後学びたいこと（第2回）

カテゴリ	要約
救急処置 危機管理	応急処置の具体的な方法、食物アレルギーの給食における対応(保護者・児童との日々のやりとり)、子どもへの対応、ヒヤリハット事例の交流
保健室経営	保健室来室状況などについて管理職や職員全体にどのように伝え、連携していくか、来室記録の記録方法・保存(データや紙媒体)、その活用方法
保健教育	子ども達が主体的に学べる保健指導の実践、アクティブラーニングを取り入れた保健指導、トイレのスリッパをそろえる活動、心の健康教育の実践交流
保健室対応	保健室登校への対応、特別な支援を要する児童生徒への対応
生徒指導	養護教諭としての生徒指導への関わり方

看護職者の研修として有用となるよう、事前に参加者の職務に対する思いや悩み、今後学びたいことを明確にした。講師にも事前に連絡し、学びたい内容についてもできるだけ深まるよう講話内容を工夫していただけた。全体交流では、講師やファシリテーターからの指導・助言を加え、研修が有用となるよう工夫をしてきた。

## 2) 学びの内容

学びの内容は、【養護教諭の職務の振り返り】【養護教諭としてのスキルアップの必要性】【養護教諭像の醸成】【養護教諭の職務の発展のさせ方】【悩みや葛藤】に分類された。詳細を表6、表7に示す。

表6 第1回「養護教諭学びの会」学びの内容

	学びの内容
養護教諭の職務の振り返り	組織的な対応をするために自分の立ち位置を見直して、誰と何を、どのように・・・と具体的に考えていきたい。 様々な視点から事故発生時の対応について考え交流することで、自分では気が付かない視点を学ぶことができた。 今の学校において学校安全に対する意識が非常に低下していたことを実感した。 失敗を振り返り大きな失敗や事故につなげないことが本当に大切だとわかった。
養護教諭としてのスキルアップの必要性	不安に感じている救急処置や教育相談について、研修会に積極的に参加したい。 学校の体制を整え、学校全体のスキルアップを目指したいと思う。 今回紹介された本や研修に積極的に参加したいと思う。
養護教諭像の醸成	1つの経験が無駄にされず動かれる姿勢に自分を改めたい。 基本的なことを常に丁寧に行う、という言葉に共感した。
養護教諭の職務の発展のさせ方	現状を見つめ、そこからもう一度問題点を洗い出し、自分の中に生じた不安をそのままにしないこと。 先生方から協力を得られやすい体制をつくるために日ごろからいろんな先生と関わる。失敗を相談できる関係づくり
悩みや葛藤	話す機会が少なく、いざというときに指導ができない。指導力の向上も課題 スキルアップについては、経験を重ねてもチーム学校の養護教諭として求められる役割と実際の姿が合致しているのか心配である。

表7 第2回「養護教諭学びの会」学びの内容

	学びの内容
養護教諭の職務の振り返り	参加することで、自分を見つめ直すことができ、気持ちも軽くなり先に進める。 まずは自分が子どもたちにどういう教育をしていきたいのかを考えて、保健室経営計画を立てたい。例年と同じことに疑問をもちそれで良いのかという視点が必要。 評価してもらえる状況を自分で作り出さないといけないとわかった。
養護教諭としてのスキルアップの必要性	自分自身の知識や技術を向上させるための勉強 子どもたちが学びを深めて、力をつけられる保健教育を実践できるよう自分自身もっと学ばなくてはならないと思った。 知識・技術の習得が必要であるため、研修等の機会を上手に利用していく。
養護教諭像の醸成	子ども主体、子どもに軸足をおいて対応していけるようにする 養護教諭として働くうえで核となるものを得るために、目の前にある基本的なことを確実に 行っていく。 自分自身の養護教諭像をもつこと、専門性とは何かを見つめ直すこと。 子どもたちのことをいかに思い行動するか。養護教諭の熱意。
養護教諭の職務の発展のさせ方	経営案の作成と、日誌を毎日書いて、管理職に目を通してもらうことが、スキルアップになり そうなので取り組みたい。 ケース会議のすすめ方や、職員研修用のマニュアルの作り方など、分かりやすい資料作りの スキルも身につける必要があると思った。 特別支援学校の実践を聞き、様々な工夫は全て子どものためであるという部分を今後も大切 にしていきたいと思った。これから実践に活かしていきたい。 1年目で、なかなか自分の意見を主張することができていないので、根拠のある数値や情報を 基に伝えていけると良いと思った。 保健教育をシリーズ化する。その考え方を目指したい。実践後の評価まで考える。
悩みや葛藤	経験者であっても直接、指導や評価を受ける場がほしい。良くも悪くも待っては何も言 われない。

### 3) 研修テーマ・研修内容の評価

参加者の全てのニーズに合わせた研修会にすることは難しいが、スキルアップしていきたいと感じて集まった若手養護教諭の存在に、ベテラン養護教諭からの期待が年々高まってきていると感じている。同時にベテラン養護教諭にとっても改めて自身の職務内容や、スキルアップについて問い直す機会となっている。ベテラン養護教諭であっても、自身の姿が学校現場で本当に求められている姿なのか、チーム学校の養護教諭として求められている役割を果たしているのか心配で、この研修会で学び直しをしたいと思っている養護教諭も増えてきている。同じ研修内容であっても経験年数に応じた学びがあったと評価できた。

研修テーマ・研修内容については、よかったという評価を概ね得ており、次年度への参加意欲が高まった研修会にもなった。経験年数が混在したディスカッションを行うことは、自身の成長をより描きやすくなるという良さもあるが、若手養護教諭には、悩みや不安を話しにくいという課題もあったので、今年度は、2回とも経験年数別のグループ交流とした。現段階では高評価であった。事前にアンケートを取り、課題意識をもち参加できるよう学びの明確化を図ってきた。学びたいことと研修内容が必ずしも一致しなくても、多様な視点から養護教諭の職務やスキルアップの視点につながっていることが、意見感想からも伺えた。

また、参加者の疑問点や知りたいことには、答えられるよう講師やファシリテーターとその内容を共有し、解決できてよかった、参加してよかったという評価も得ており、グループ交流や全体交流を工夫することができた。

## 2 参加看護職の意見と成果

参加者のニーズは、救急処置や危機管理、保健室経営、健康相談、保健教育等、各々が抱える様々な内容であり、事例への具体的な支援方法や、職務の進め方や研修内容等であった。参加養護教諭が、自らの実践を省察した上で、ベテラン養護教諭の助言を受けたことで、自身の今後の目標を見つける機会となった。ベテラン養護教諭が、ある程度の実践を積んでいる中で感じる課題と、経験年数の浅い養護教諭が感じる課題には、若干の差があることは予想されたが、視点を示すことにより学び方を変化させていることが講話後のディスカッションから確認された。事実に基づく知識や対応スキルを身に付けることが大切なのではなく、自己の課題をどのように捉えるか論理的な学びへと広がった。経験から培った養護教諭の理念を学び、自らが理想とする養護教諭像を思い描く機会となってきている。参加したベテラン養護教諭であっても、自身の実践を評価してもらえる場を必要としており、求められる姿は何か問い続けていることが見えてきた。

また、多くの参加者の学びからは、自身の養護実践を評価してもらえるような機会や体制、校内での関係づくりが重要であり、評価される機会を通して成長し続けたいと感じていると考えられた。常に課題意識を持ち続け、学校保健の中核を担う養護教諭として実践の要となる保健室経営計画が研修会の場で再確認された。

## **VI. 教員の自己点検評価**

### **1. 実践の場にも与えた影響**

養護教諭学びの会で実践を振り返る視点を学ぶことができたことで、その後、校内の実践を意識的に見ることができるようになったという意見があった。自身の職務内容の充実に向けて主体的に考え改善している意欲につながったと推察される。

### **2. 本学の教育・研究活動にも与えた影響**

養護教諭の学びを知ることは、基礎を形成する上での大学教育と実践をつないでいくための学修の在り方を考えるうえでの貴重な機会となった。また、卒業後の支援につながり、広く現場の養護教諭との関係を作るうえでも有意義であった。

## **VII. 今後の課題、発展の方向**

養護教諭に特化した本事業を実施することの意味は大きい。参加者自身が、実践の省察と同職種からの評価を得ることによって生まれる達成感や満足感は、スキルアップや養護教諭像を醸成するために必要なことだと感じる。今後は、岐阜県が示す育成指標に基づき、各育成段階の養護教諭像を、参加者と討論しながら更に養護教諭像の醸成を目指していく。